科目名			担当教員	
特講・社会福祉学 26 （こどもと家庭支援の実践事例検討）			川口　正義	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
DT2226	1	1	S（講義）	1 年以上
生成 AI 利用レベル		試験（スクーリング含む）　：　C		

※2025 年度と 2026 年度のみ開講の科目です。
※受講希望者はスクーリング申込締切日までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

科目の概要

■科目の内容

現代社会においては、時代社会状況の影響を受け、こどもと保護者・家族を取り巻く状況は、多様化・複雑化している。例えば、こどもたちは、不登校、いじめ、自傷・自死、障がい（身体、知的、発達、精神）、社会的逸脱行動、ネグレクト・虐待、面前ＤＶ、アタッチメント、意見表明権の剥奪、等々の問題と向き合う日々を余儀なくされている。また保護者・家族も子育て不安、ＤＶ、精神疾患、アディクション、生育史からもたらされる問題、喪失・心的外傷体験、ヘリコプター・ペアレント、生活困窮、孤立・孤独、社会的排除、等々の問題に苦悩し、さらに学校や地域、社会もまた多くの改善すべき課題を有している。

このようなさまざまな社会不正義とも言える状況を被っている当事者（こどもや保護者・家族）を主体（主人公）として位置づけたうえで必要とされる「支援」とは、何であろうか？　また、支援者（ソーシャルワーカー）として当事者と向き合う（あるいは、向き合いたいと願う）際に必要とされる「エチケット」（留意すべき問題意識とスタンス）とは、何であろうか？　本科目での事例検討を通して、それらの課題について共に学んでいきたい。

■到達目標

１）事例検討の目的と意義を理解し、事例検討に際して留意すべき姿勢について説明できる。
２）こどもと保護者・家族を取り巻く社会状況とその心象風景について理解し、説明できる。
３）「こども」あるいは「当事者」とはいかなる存在であるかについて理解し、説明できる。
４）子どもと保護者・家族を主体（主人公）とした支援のあり方、及び今後の課題について理解し、説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」を身につけてほしい。

■教科書・参考図書

【教科書】

教科書は使用しません。

【参考図書】

当事者ファーストの視点に立って、当事者理解や援助（支援）のあり方、及び専門職（ソーシャルワーカー）の存在意義について考えるうえでご参考になると思います。

稲沢公一『援助関係論―「人と人との」関係性―』有斐閣、2017 年

H．S．クシュナー著、斎藤武訳『なぜ私だけが苦しむのか―現代のヨブ記―』岩波書店、2008 年

旭洋一郎、髙木博史編著、西﨑緑・打保由佳・深田耕一郎・小森淳子『いま、ソーシャルワークに問う』生活書院、2023 年
木下大生・後藤広史・本多勇・木村淳也・長沼葉月・荒井浩道『ソーシャルワーカーのジリツー自立・自律・両立したワーカーを目指すソーシャルワーク実践―』生活書院、2015 年
松本俊彦編『「助けて」が言えない　子ども編』日本評論社、2023 年
松本俊彦編『「死にたい」に現場で向き合うー自殺予防の最前線―』日本評論社、2021 年
青木省三『ぼくらの中の「トラウマ」』ちくまプリマー新書、2020 年
安克昌『増補改訂版　心の傷を癒すということー大災害精神医学の臨床報告―』作品社、2019 年
滝川一廣『子どものための精神医学』医学書院、2017 年
宮田雄吾『やっかいな子どもや大人との接し方マニュアル』日本評論社、2016 年
楠凡之『「気になる保護者」とつながる援助―「対立」から「共同」へー』かもがわ出版、2008 年

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	事例検討の目的	事例検討の目的・意義、実施に際しての留意姿勢
2	事例検討①：不登校、社会的逸脱行動	事例：不登校と社会的逸脱行動の問題を抱える中学生
3	事例検討①：同上	グループワーク、発表、ふり返り
4	事例検討②：自傷・自殺	事例：自傷、自殺未遂、トラウマ後遺症に苦悩する高校生
5	事例検討②：同上	グループワーク、発表、ふり返り
6	事例検討③：虐待、社会的養護	事例：虐待、一時保護、施設入所体験をもつ４兄弟
7	事例検討③：同上	グループワーク、発表、ふり返り
8	まとめ	こども・家庭支援に際して留意すべき視点と姿勢
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

・上記の講義内容にそって、教員より事例を提示します（当日、資料を配付）。
・提示された事例を基にグループワークを行い、以下の様々な視点を基に検討し、アセスメント、支援計画の作成を行ってもらいます。
・【視点】当事者である子どもへの支援、保護者・家族への支援、ストレングス、アドボカシー、アウトリーチ、ソーシャルアクション、学校や公民の支援機関との多職種・多機関連携、ソーシャルサポート・ネットワーク、親子関係の再構築、家族の再統合、など
・各事例検討の進捗状況を踏まえて、適時、グループから発表していただき、全体で共有し、議論を深めます。
・各事例検討の最後に、ふり返りの時間をもち、検討した事例を通して明確になる問題の般化、及びその支援に際しての留意点についての整理を行います。
・３つの事例検討を踏まえ、こども家庭支援の領域における支援を行う場合に必要とされる（あるいは、問われる）問題意識、視点、スタンスについて整理します。
・上記を通して、各自が支援者（ソーシャルワーカー）として、当事者と対峙する仕事をしていく際に必要とされる「覚悟」について見つめ直す時間をもっていただけたら、と願っています。
・事例検討に際しては、事例検討におけるルールやマナーを遵守してください。
・スクーリングは、講師と学生間のみならず、学生と学生との間で繰り広げられる「双方向の関係性」によって成り立つものです。その過程で生み出される「場の力」を皆さんと共に創り出していけたらと思っています。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況（40%）＋スクーリング試験（60%）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

1）現代社会におけるこどもと家族を取り巻く社会問題、及び学校や支援機関が直面している問題について調べ、把握しておいてください。

2）事例検討とは何であるのかについて調べ、学習しておいてください。

3）本科目を受ける前の時点でのご自身の「援助（支援）観」がどのようなものであるのかについて、見つめ直しておいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

1）日々、ソーシャルワーク実践をしていくなかで、「事例検討をする」ことはいかなる意味があるのかについて、更に考えていってください。

2）本科目を通して検討した事例（社会問題）も含め、こどもと家族を取り巻く社会問題に関心を抱き、それらの「社会不正義」を改善していくために、ソーシャルワーカーとして何をしていけばいいのかについて、ソーシャルアクションの必要性も含め、自らの実践に結びつけ考えていってください。

3）「援助」（支援）とは、何なのか？　「専門職」に出来得ることとは、何なのか？　について、自己覚知を重ねながら、ソーシャルワークの価値・倫理観を踏まえて、希求し続ける学びをしていってください。